

鞍馬くらまの牛若うしわか  
(松口月城まつぐちげつじょう)

恩讐おんしゅう 脉脉みやくみやく 心肝しんかんに 徹てつす

鞍馬山くらまやまの 牛若丸うしわかまる

経文きょうもんを 読よまず 韜略たうりやくを 読よむ

鍊磨れんまの 一劍いつけん 天てんに 倚よつて 寒さむし

解説 勇将義経が五条の大橋で武蔵坊弁慶を屈伏せせしめたのも、また、後年、壇の浦で八艘飛びの離れ業を演じたのも、すべてこの鞍馬時代の修練の賜と言われている。

語釈 ※恩讐 恩と仇。なさけとうらみ。 ※脉々 途絶えずに力強く続くさま。 ※心肝 心。心の底。 ※韜略 兵法。兵略。 ※鍊磨 鍛え磨きあげること。